

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和2年3月23日（月） 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 201、202、203会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 鈴木誠、中村昭典、嶋田喜昭、水内智英、藤岡喜美子、高橋秀治、松浦英幸、平田幸恵、石田要、中濱友子、畑竜介
 - (2) 執行機関 鈴木経営部長、井出企画広報課長、小枝企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査補、熊澤企画広報課主事、中柴企画広報課主事
- 5 議題
 - 【報告事項】
 - ・第2期 いいね！いぬやま総合戦略について
 - 【協議事項】
 - ・総合計画改訂版及び第1期総合戦略等の進捗について
- 6 傍聴人の数
なし

7 内容

(1) 開会

事務局	皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、また、コロナウイルスで大変な中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただ今より令和元年度第4回犬山市総合計画審議会を開会させていただきます。 本日はコロナウイルス感染拡大防止のため、話しづらいかもしれませんが、マスク着用とさせていただきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。 まず始めに、鈴木会長よりごあいさつをいただきたいと思います。 鈴木会長、お願いいたします。
-----	--

(2) あいさつ

鈴木会長	皆様、こんばんは。今、事務局がお話されたことは、実は打ち合わせの段階から、備えはやっておかないといけないだろうという話をさせていただいていました。今日は第4回の審議会ということで、主に行うことは、何か審議をして取りまとめをするということではなくて、まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況を確認していただきながら、さまざまなKPIの数値について各担当課から評価が出ています。そう
------	---

	<p>いったものを皆さんがご覧になって、受け止めた感想や考えなどを率直にいただく。あるいは総合計画改訂版について、どこまでできて、できていないとかを、ご覧になっていただけたらと思います。「率直に意見を述べ合う」ということを今日は行っていきたいと思います。</p> <p>もし途中で体調が悪いということがありましたら、遠慮なく退出していただいて大丈夫ですので、その辺は遠慮せずによろしくお願ひしたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議は、委員総数14名のうち、現在、出席11名、欠席3名となっています。会議を開催するにあたり、犬山市総合計画審議会設置条例第6条第2項に基づき、出席者が過半数を超えておりますので、本会は成立いたしましたことをご報告いたします。</p> <p>本会議は、犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドラインに基づき、公開とさせていただきますが、本日は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため傍聴人は受け付けておりません。</p> <p>また、会議録につきましては公開しますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。</p> <p>この会議録につきましては、事務局で作成したものに2名の方に署名をいただくことになっています。今回は、会長と平田委員をお願いいたします。</p> <p>それでは、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前に送付させていただきました資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙「はじめにお読みください」 ・犬山市総合計画審議会名簿 ・第2期 いいね！いぬやま総合戦略 ・第2期 いいね！いぬやま総合戦略（概要版） ・調査票1 第5次犬山市総合計画改訂版 目標指標一覧表 ・調査票2 総合計画改訂版重点施策 実施状況一覧表 ・調査票3 総合戦略関連事業 進捗状況一覧表 ・調査票4-1 地方創生関係交付金の効果検証（地方創生推進交付金） ・調査票4-2 地方創生関係交付金の効果検証（地方創生拠点整備交付金） <p>事前送付した資料は以上です。</p> <p>また、追加資料としまして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会委員名簿2 <p>本日のグループ協議のグループ分けが入ったものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期 いいね！いぬやま総合戦略（概要版） <p>事前に送付した資料の差し替えものとなります。</p> <p>それから、パブリックコメントの結果になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（第2期）いいね！いぬやま総合戦略（素案）に対する意見・提案と市の考え方について ・第5次犬山市総合計画改訂版 目標指標一覧（修正資料） <p>加えて、「第5次犬山市総合計画改訂版」と「いいね！いぬやま総合戦略」の本冊と概要版をご用意しています。</p> <p>多くの資料となり恐れ入りますが、過不足等がございましたら、事務局までお申し付けください。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>

	<p>それでは、ここから議事に入ります。議事進行は鈴木会長にお願いします。</p>
<p>(3) 議事</p>	
鈴木会長	<p>それでは、ただ今から進めてまいりたいと思います。本日の議事は、今年度、3回にわたって議論してきました、第2期総合戦略についての報告と、犬山市の総合計画及びこれまでの総合戦略等の進捗状況についてとなっています。</p> <p>まず、「第2期 いいね！いぬやま総合戦略」について、事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、「第2期 いいね！いぬやま総合戦略」につきまして、説明させていただきます。</p> <p>1月20日に審議会から答申をいただいた後、2月5日から2月26日にかけてパブリックコメントを募集しました。その後、3月7日より提出された意見と市の考え方について、本日、追加で配布しました資料「(第2期) いいね！いぬやま総合戦略(素案)に対する意見・提案と市の考え方について」を市ホームページに掲載しています。</p> <p>いただいたご意見につきましては、第2期総合戦略の考え方と一致するものであったり、これまでの市政について厳しいご意見もありましたが、総合戦略を通じて実現したい姿と、概ね一致するものと考えています。よって、大きな内容の変更はありませんが、誤字・脱字等の修正、一部表現の修正、用語解説の追加等を行っております。あわせて、表紙や写真等を掲載して、完成した戦略が緑色の冊子となります。</p> <p>また、A3両面で概要版を作成しています。</p> <p>審議会委員の皆様にご協力をいただき、こうした形で完成することができました。誠にありがとうございました。</p> <p>今後、犬山市議会へは全員協議会で報告する予定です。市民の皆様へは、ホームページへ掲載するとともに、概要版を市内全域の町内会へ回覧したいと考えています。</p> <p>並行して緑色の本冊については印刷・製本し、戦略の見直しにご協力いただきました審議会委員の皆様にもお配りする予定です。</p> <p>報告は以上です。</p>
鈴木会長	<p>今回、パブリックコメントを通じて14のコメントをいただきました。それについて市に回答をしてもらっています。報告事項については以上ということですが、内容について確認をしたいという方がいらっしゃれば、ご質疑等いただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
各委員	<p>(質疑等なし)</p>
鈴木会長	<p>それでは次に協議事項、「総合計画改訂版及び第1期総合戦略等の進捗について」、まずは事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは説明させていただきます。</p> <p>まずは総合計画について、です。</p> <p>調査票1をご覧ください。</p> <p>昨年度も同じ調査票をお出ししましたが、今年度は市民意識調査等にかかる指標が追加されています。</p> <p>なお本調査票につきましては、一部の数字が表示できておりませんでしたので、追加資料をお配りしております。調査票1は、総合計画に記載された各指標の達成状況と、市の取組等を記載したものです。右から5列目にある⑪欄では令和元年度末における目安値を、その右⑫では、目安値の達成状況を記載しています。その横の⑬では、⑫のようになった結果を分析し、⑭では、それを踏まえて次年度にどのように取り組むのかを記載しています。特に、目安値に至らなかった指標、「×」がついている指</p>

	<p>標につきましては、改善点を記載するよう心がけています。指標につきましては、平成29年の総合計画改訂時と比べると、約6割の指標が改善しておりますが、目安値を達成しているものは37.4%にとどまっています。なお、今年度特有の事象としまして、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る措置の影響を受けた指標がいくつかあります。調査票1の4頁、整理番号48番「学校給食での地元農産物使用料」、これは、休校に伴って給食がなくなったことが影響しています。12頁、整理番号185番「自主事業の鑑賞・参加者数」。これにつきましては、イベントの中止により実績値が下がっています。ほかに、犬山城の改修工事や名鉄犬山ホテルの営業終了もありました。観光関係の指標、4頁の整理番号57番「犬山城登閣者数」、58番「木曾川うかい観覧者数」、次頁59番「ホームページ閲覧者数」、こちらは市観光協会のホームページとなります。さらに下の60番「観光案内所の利用者数」が、犬山城の改修工事や名鉄犬山ホテルの営業終了の影響を受けた指標となっています。</p> <p>調査票2では、総合計画の3つの重点施策に関する施策の実施状況を記載しています。表の左から3列目、③該当する総合計画の基本施策番号とありますが、市民活動の支援、コミュニティ活動の支援、中小事業者の育成といった表現になっています。調査票2に記載されている事業は、今後も継続的に実施していく性質の事業が多いため、実施中が大半となっています。なお、未着手となっている1事業、3頁上から5段目につきましては、予定が遅れておりますが、来年度から実施予定となっています。</p> <p>続いて、総合戦略について、です。</p> <p>調査票3をご覧ください。</p> <p>こちらは、今年度が計画の最終年度となる、第1期の戦略にかかる調査票です。調査票2と同様に継続的な事業が多いため、実施中が大半となっています。なお、総合戦略の目標値の達成状況につきましては先程の第2期総合戦略本冊の9頁に記載のとおりです。</p> <p>最後に地方創生関係交付金について、です。</p> <p>地方創生関係交付金は、総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援するものとなっております。犬山市では計7つの事業を実施しています。調査票4-1ではソフト事業にかかる交付金、調査票4-2ではハード事業にかかる交付金を記載しています。4-2上段にあります「シルバーと若者が」で始まる事業については、4-1、一枚目の上段にある「農あるシルバーは」で始まる事業と、4-2下段にある「伝統文化を活用し」で始まる事業は4-1、3枚目、「観光を産業の柱へ」の事業と関係が深い事業となっております。4-2にある拠点整備交付金で、地方創生の拠点を整備し、4-1にある推進交付金でソフト事業を実施するものとなっています。こちら2つの調査票は、今年度見直し、今年度に何を実施したのか、それがKPIにどう影響を与えたのか。そして、今年度を踏まえて次年度にどう取り組むのか、最後に事務局による事業の評価を4段階で実施しています。4-1、4-2に記載された事業につきましては、事業によって大小はあるものの、いずれの事業も地方創生に効果があるとともに、地方版総合戦略の実現に有効であったと考えております。</p> <p>説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>ただいま、協議事項についての説明がありました。ここまでの説明について、ご確認したい点等はございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>

	<p>それでは、今説明をいただいた資料をもとにして、これから委員の皆さんに2つのグループに分かれていただきまして、グループ内で皆さんの意見交換などをしていただきたいと思います。本日は事務局に進行を務めていただいて、我々委員は同じ立場で自由に意見を述べさせていただこうと思っています。なお、テーブルに戻ってそれぞれの意見をご紹介いただくことは、今日はしませんので、テーブルの中での協議で完結という形で進めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは、ご自身が該当するグループのテーブルへ移動してください。</p>
--	---

【Aグループ】

事務局	<p>グループワークでは、総合計画、総合戦略、地方創生関係交付金について、委員の皆様から、ご意見やご助言、ご感想をいただいたり協議をしていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>先ほど説明しました資料1から4-2の内容・中身についても構いませんし、普段の暮らしですとか環境の中で感じていることなどでも構いません。それぞれの立場や、視点からご発言いただけたらと思っています。いただいた発言につきましては、関係課にフィードバックし、今後の市政運営に役立ててまいります。</p> <p>なるべく多くの皆様にご発言いただきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。</p>
畑委員	<p>いいね！いぬやま総合戦略のパブリックコメントについてでも良いですか？パブリックコメントはこれ14件ですべて？</p>
事務局	<p>そうです。</p>
畑委員	<p>この数は多いですか？少ないですか？いろいろなパブコメがあるかと思いますが。</p>
事務局	<p>いろんなパブコメと比べると多い方です。パブリックコメントですと0件が多いです。</p>
畑委員	<p>パブコメをやりましたというのが重要になってしまっている気がします。</p>
事務局	<p>結構多い方だと思いますね。</p>
畑委員	<p>多い方ですか。</p>
事務局	<p>同時期に道の駅の関係でパブリックコメントをやっていますが、あれは確か3桁近くあって、あれは異様に多かったと。</p>
畑委員	<p>全体、市民のことを考えるとこの14件というのは、少し寂しいような感じもします。LINE等でも配信されたと思いますが、どこから来ているのかはわかりますか。LINE経由で来ているのか。</p>
事務局	<p>そこまでは分かりません。</p>
畑委員	<p>基本的にHPのURL</p>
事務局	<p>そうですね。HPか広報か。</p>
畑委員	<p>そこら辺が「どれぐらい総合戦略について市民の方々が皆さん見ていただいているのか」というのが、パブコメの数をみて思った感想です。細かい事業の中身についてはいろいろ思うところが多々ありますが、全体的に言うと、これをどうやって周知していくのか、その辺がすごく重要なのかなという気がします。</p>
事務局	<p>そうですね。まず回覧をしようと思っています。先ほどのA3（概要版）ですけれども。まずはそこが第1歩と考えているところです。</p>
畑委員	<p>回覧、HP、LINEというのが今のやり方だと思いますが、それでどれくらい周知ができるのかという一周知の仕方というものは永遠のテーマだと思いますけれど。常に新しいことを考えていかないといけない。パブコメがいっぱい出てくると、</p>

	<p>また来たかという感じにもなると思うし。「どういった意見が欲しい」と言ってしまうと、「それは誘導だ」という話になってしまいますけれど、何か意図とか思いというものがあると。大体、パブリックコメントって、これについてパブリックコメント募集しますからどうぞみたいな。そこに何かこう、思いがあるともう少し何か、「へえ」と思うことがあるのかなと思いました。</p>
事務局	<p>藤岡副会長は何かございますか。</p>
藤岡副会長	<p>前回はお休みをいただきまして、すみませんでした。まず総合計画の目標指標ですけど、当初の数字から今の数値だけを見ると非常に危険と言いますか、本当は毎年の数字を取って行って、趨勢を見ることが大事です。改善の方向にあるのか、悪化の方向にあるのか、停滞にあるのか。今の時点でスポンと取ると、たまたまそれが低かったとか、高かったりとかいうことがありますので、それを頭に置いて考えないといけないのかなということです。あとは、今の達成状況の評価を書きいただいているんですが、この達成状況の中で、おそらく行政が頑張るものというのは割と改善していく。窓口サービスの向上とか、本来なら行政が頑張れば改善できるものというのは、私は努力をしていただきたいなと思いますが、あとの数字はどちらかと言えば行政の限界を示唆しているものがあって、行政がいくら頑張っても駄目なんだよと。そういうものこそ市民や民間企業、地域の人たちと一緒に問題解決をしないといけないというのがあるから、それを少し整理されると良いのかなと思いました。行政の総合計画ですので、行政側の目線で指標が書かれていますけれど、先ほどの保健サービスや保育サービス—行政が制度上やれることはしっかりやってみえると思っていますけれど、そうではないもの—災害関係などは市民側の力が必要ですので、それは整理をされた方が良いのかなと思いました。だから、ここに次年度以降の取組と書いていただいているんですが、1個ずつをきちんと書いてあるという感じですが、本当はそれを書くときに、市民とどう協働していったらいいかということと、複数の事業を多角的にやることで解決できることがありますので、その目線がないかなと。一つの事業で単線で全部整理されているなということを思いました。</p> <p>いいね！いぬやま総合戦略は、SDG sの目標を書いていますけど、SDG s推進都市の問題もあって、こういう問題を特に重点的にどの施策でも横ぐしを刺したようにやっていくというのを、今からでも遅くはないので、推進するときに分かりやすく示した方がよいのかなと思いました。全部のSDG sの目標がありますが、その中で犬山市としては、特にどこを重点的にやっていくのかというのは、それぞれの施策で横軸で串刺しされるようなものが多いので、担当課の方が分かると思います。一個ずつはリンクさせてあるから、考えてあるなと思ったんですけども、一個ずつリンクさせるのではなくて、関連させるものでどう横ぐし刺していけるかということ。私もまだ読み込んでいないので、具体的な例で言えませんが、どちらかと言ったら、住み続けられるまちづくりを、とか働きがいとか。あれは軸が刺せるのではないかなと。推進の時の区分かなと。</p>
事務局	<p>SDG sに関しましては、ちょっと今、順番が一部逆になっているところがあります。犬山市として「SDG sにどう取り組んでいくか」が本来あるべきだと思いますが、それができていない段階で、先行して総合戦略に載せています。最終的に犬山市としてSDG sにどう取り組んでいくのかを、体系的に示せるのは、総合計画改訂のときかなというふうに考えております。それまでの間に先行して作る計画についてはSDG sを位置づけ、まずは市の職員も市民の方にも、犬山市はSDG sに取り組んでいることを知ってもらうこと、「SDG sってなんだろう」を知ってもらうところ</p>

	から始めよう、ということで今回載せたというところです。
藤岡副会長	まずはSDGs知っていただくというくらいのニュアンスでロゴが載っているという。今度、総合計画の見直しの時に、横軸等を。
事務局	そうですね。何を重点的にやっていくのか、ということもそこでやっていくのかなと思っています。
藤岡副会長	この中の細項目に入っていくと、面白い項目がありますので、それはそれで議論するといいですね。これをやると企業さんと協働できます。中小企業の大きいところや大企業は、目標数値を置いていますので、非常に連携しやすくなるかなと。
事務局	以前に副会長から「SDGsのマークだけではなくて、その向こう側に169のターゲットがあつて・・・」というアドバイスをいただいたので、マークを付ける際には、そこまで意識しましたが、それを戦略に書いてしまうと、まち・ひと・しごと創生総合戦略なのに、SDGs計画みたいになってしまうので、そこは最小限にさせていただいています。
藤岡副会長	分かりました。啓発ということであれば大丈夫です。ありがとうございます。
事務局	続いて、中村副学長どうですか。
中村(昭)委員	この中には、自分が割と主体的に関わらせていただいている事業が一部含まれているので、その流れで眺めていました。特に総合戦略についてですが、暮らしたいまち、活躍したいまち、訪れたいまちにしようというもの、この3つの目標を掲げていますよね。この中で言うと、犬山市が他の市町に比べて、勝っているポイントがあります。3番目の「訪れたいまちがある」ということは、私が説明するまでもなく、城下町を中心として、市外からたくさんのいろんな方々が、主に観光目的で犬山に来ていただいている。これは多分、この目標を立てても、なかなか実現することも難しいテーマなのに、犬山はこのポイントに関しては、他の市町と比べて非常に高い実績をあげている。逆に言うと、こここの部分をどうにかその市政に、皆さんに喜んでもらえる形に活かせないかというふうに考えると、非常に犬山らしい戦略につながっていくのかなと思います。そういう視点で見えていくと、例えば駐車場が足りない。あるいは、市外の人が事業者になっている。城下町に店を出しても税金が犬山に落ちない。ゴミの問題が増えているとか、課題が顕在化しているものとか、あるいは一昔から言われていることで簡単に解決する問題ではないのですけれど一なかなか宿泊するスペース、宿泊施設の数の問題もあつて、なかなか滞在者が増えない、日帰りで帰っていくという形が多いので、どうしても営業時間に限りが出て、お金が犬山市に落ちる機会が少なくなってしまうとか。様々なもう既に課題が顕在化しているところがあるので、その辺りに対して何か具体的な策を集中して、もしとることができれば一この総合戦略というものの性格とは少し反することを申ししているかもしれませんが、何か犬山らしい成果を出そうと考えると、ここに特化して考えると出しやすいのかなというふうには思います。あと市民の皆さんからもゴミを何とかしてくださいとか、駐車場、あるいは道路が土日に混み合っているとか、課題が明確なものも出ているので、それに対して何か手立てを、お金と時間と労力を集中的に特化するというやり方をとるのはなかなか市としては難しいんですかね。
事務局	なかなか総合戦略というもののの中に、「これ」と1点を決めることは非常に難しいかなと思います。ただ先ほどの言葉をつなぎ合わせてお話させていただくと、観光に関する戦略とか計画ということに関しては、こちらの4-1に、「観光を産業を柱に・・・」というのがあります。観光戦略をまさに今作っているところにありますので、それができると、先ほどおっしゃられた問題のいくつかの方向性が示されるのか

	など思っております。
中村(昭)委員	あれも何かアンケートか何かを、調査をした上でそれに基づいて、方向性なり課題などを見つけていきたいと思いますというやり方ではありませんでしたか。
事務局	観光客へアンケートを取ったり、ネットー愛知県から何人、三重県から何人とアンケートを取ったり、あとは携帯のGPSのデータ等で人の動きを調べて、戦略立てていく、ということをやっています。それとは別に観光まちづくり会議というものを持っていて、そこでは事業者さんやそこに住んでいる方が話し合いをする場みたいなものを持っているという形です。
中村(昭)委員	そういった調査とか話し合いの中から課題が浮き彫りになったりだとか、傾向が見えたりすると思うので、それはそれで大事だと思いますけれど、既に顕在化している課題が、先ほど申し上げた通りいくつかあるので、そういったものに対する手というのは、戦略を待たずして一待ったなしなので、そこを考えていく必要があるのではないかなというふうに考えています。
事務局	観光というところがちょっと非常に、ウエイトが高いものになるので、今年度から手を付け始めて、来年度に完成させる予定となっているので、時間がかかるかもしれないですけど、その分良いものを作ろうとしているとご理解いただければと思います。 中濱委員、いかがですか。
中濱委員	送っていただいた資料を拝見しまして、この達成状況の評価のパーセントというのは、単純に考えたら100を超えていたら、「すごいな」ということで「嬉しいな」と思うんですけども、これは、誰を評価しているのでしょうか。
事務局	市のこの計画が順調に進んでいるかどうかを見るものになります。
中濱委員	それぞれの担当課の業績ー市役所の担当課が、これを見て、うちの課はノルマ達成みたいなそういうものなんでしょうか。
事務局	そうですね、ここ(総合計画)に書いてある、「いつまでやる」というところに計画通りに、「この課はできている・できていない」とか、「この分野はできている・できていない」。各課の評価にもなりますし、市としてこの総合計画どうなっているのか・・・
中濱委員	それを調整していくときの資料ということですよ。例えばこれを、先ほどの話を伺っていて、このままの指標ー今の時点でとったものに、このまま公表することは危険性があるのかもしれないんですけども、市民に向けて、100%超えたものだけでも、「犬山市はこんなにいい状況です」というアピールの材料として使うような性質のものではないですか？難しいでしょうか。
事務局	資料の公開については、この会議自体が公開の会議になるので、ここで使った資料はホームページにアップしています。
中濱委員	でもだれも見えていないですよ。 例えば、定住移住のアピールの強みとか、SDGsでも、その分野で表彰されてる市町があったりとか、「何か強みを」と言うときに、この指標を。
事務局	犬山市だけではないかもしれませんが、良いところを自慢して訴える力があまりありません。あまり、それを上手く表現できていないことは確かかなど。上手く外へー市民だけではなくて市外の人にも、「こういう町ですよ」と訴える力が少し弱いかなど。もともと市民のためにやっているものが多いので、外に向けてということは、なかなかやってこられなかったのは確かです。
中濱委員	市民のために教えてくださったら、それだけでも誇らしいのもありますし。

事務局	<p>そこで、非常に、もどかしいのか、「先ほど100%を超えているもの」とおっしゃられました。達成率が厳しい状況です。50%を超えている分野も少ないという恥ずかしい状況があります。ただ、先ほどのPRは重要だと思っていますので、総合戦略を作る上でも、いろいろな方から、「犬山は良いことをやっているんだけど、それがPRできていない」という話があったので、そこについては考えていきたいと思えます。また、これで評価しても、市の評価でしかありません。自分で目標を作って「こうだったよ」としか言えないので、他市と比較して「ここがいいよね」と見えるようにできたらいいなと考えています。</p>
中濱委員	<p>これ1冊の目標と言うか、これが本当にそのまま実現する市であれば誰でも住みたいと思うんですけど・・・。目標を立てています、今、こういう状況です、達成できていないものもあります、だけれど今、力を入れています、この分野でこんなに素敵な市です、ということ何かで発信できればいいのではないかと。</p>
事務局	<p>その「何か」を探しているところで、LINE、Facebook、HP、広報、ありますけれども、「何か」を考えないといけないー発信方法を考えていかないといいけません。ありがとうございます。</p> <p>平田委員はどうでしょうか。</p>
平田委員	<p>何をしゃべったらいいのか正直分らないです。</p>
事務局	<p>分野が非常に広いので、ご自身が関心のあるところで、ご発言いただければと思います。</p>
平田委員	<p>私は、犬山市の男女共同参画に関わっていますけれども、また、仕事柄雇用に関係しているのですが、いずれも指標一覧の、例えば男女共同参画ですと、調査票1の3頁になるんですけど、41と42のところをみると、達成の見込みというか102と出ていたり、一方、審議会の女性の雇用率というのは・・・。別にここの数値ではないんですけど、この総合戦略を誰に分かってもらわないといけないかという、市民だと思えます。冒頭で口火を切ってくださった畑委員がおっしゃっていた中で、回覧とおっしゃっていたんですけど、回覧は見ません。回覧はなぜ見ないかという、皆さんお忙しいので、回すだけになっている現状が多いのとー全員が全員そうだとは思わないんですけど、市に興味を持っている人というのは、市内外で、例えば、働いてらっしゃる方とかだと、なかなか市が何をやっているかということに興味を持っているかという、持っているだろうけれど、あまり時間を割いて見たりはしないとか、現状でいっぱいいっぱい。その中で回覧が回ってきて、数値があって、こういう事をやっていますといっても「はぁん」で終わってしまうのが現状。もっと伝えていく戦略を立てていかないと、市民を巻き込んで何か考えていくとか、発信していくにしても、一方通行な状態ではせっかくこんないいことをしていても、現時点での市民目線でいくと、「えっ、本当？」みたいな人の方が実は多いのかな、ということを一市民としては感じる部分があって、例えばそれが男女共同参画の問題であったりとか、あと雇用ー特に若者たち、ここにあまり触れられていないのでちょっと残念だなと思ったんですけど、若者の雇用率は正直言って全国的に低いですよ。例えば高校から就職した、大学から就職したといっても相変わらず早期離職は、七五三現象は依然として変わらないです、20年近く変わっていない。犬山市内にも、働く意欲はあっても働けない弱年無業層が正直言ってたくさんあって、厚労省からデータも出ているしー犬山市というわけではないですけど。そういう人たちのことも考えていくとー話がまとまらないんですけど、「働きやすいまち」ってあって「本当？」って思う人の方が多かったりすると、表向きにはいいことが書いてあるけれども、「本当にそんな</p>

	の？」といったときに不審に思ってしまう、不安を膨らませてしまう方もいらっしゃるかと思うと、ただ単にFacebookとかSNS、回覧だけでの発信というのは、あまり届かない。だから双方向で伝わる戦略というものもどこかで考えていかないといけないのではないか、ということをお願いしながら話を聞いていました。
事務局	非常に大きな宿題をいただいたと感じています。 これだけいろいろ便利になっても、やっぱりなかなか伝えられないですよね。昔は広報しかなかったのに、今やいろんなツールがあるにもかかわらず、なかなか難しいですね。
平田委員	やっぱり興味を持っている人は、いろんなイベントに参加していらっしゃいますし、横の繋がりを持っていらっしゃると思うんですけど。一方で、ではどっちが多いかというのは、実数はもちろん分からないにしても、例えば高齢者にとっては、SNSって謎のボックスであって分からないし、ここには「若者は交流を持とうとしない」と書いてあるけれど、「持とうとしない」のではなくて、「持てない」、「持ち方が分からない」。それはSNSの普及が広がり過ぎてしまったから、その中では交流できるけれど、リアルな交流はしない、するのが怖い、という若者が実際に多いと思います。そうなったときに、どうやって発信していくのかと。そういう媒体だけに頼るのではなくて、今でこそアナログでもいいのではないかと私は思ってしまうんですけど。そんなことを感じながら。
事務局	ありがとうございます。
中濱委員	発信事業みたいなものはありませんか。具体的な施策と、宣言はどこに該当するんですか。
事務局	こちらが情報発信に関する指標になります。
藤岡副会長	今回のコロナウイルスに関する東京都のHPすごかったですね。ヤフーの役員だった人が副知事をやっています。彼がページを作っていますが、すごく見やすい。グラフや情報が記載されていますが、民間のフリーランスの人が、自由に更新できる仕組みを作っています。だから、行政だけでやっているわけではなく、民間のITの専門家の人達の情報発信力を加えています。ITに関しては、行政が一方向的に発信することは限界です。普通の企業戦略でもそうです。発信だけでは届かないということがあるから。その次の段階で、どういうふうにシェアしてもらうのか、検索してもらうのか、というところのアプローチがないと無理で、行政はもうやれることはやっているといます。これ以上難しいと私は思います。
事務局	少し多分野過ぎると思います。これを「全部平等にやらなければいけない」という感覚は我々にもあるし、何かを落としてやるという発想は、なかなか市役所は持ちにくいので、全部同じレベルでやらなくてはいけないという。それが良いところでもあるし、悪いところでもある。そうすると、どれも何となく中途半端になる可能性はあります。情報も、皆さんの興味も別々だし、なかなか難しいだろうなあと。企業さんが何かを宣伝するというだけならそれはそれでいいのかもしれませんが。なかなか難しい。それぞれの分野でコミュニティができて、それがつながると良いと思います。
平田委員	全部つながっていて、芯となる部分は同じ。
事務局	そういう仕組みができると良いと思います。
松浦委員	皆さんの話を聞いていて、どうしても、「あれも、これも」と言われるので、行政はどんどん出してしまおう。これは宿命だと思います。そうすると、逆に多すぎて、選べないという状況が起きてきているのだろうと思います。たまたま、2日ぐらい前に町内の72歳の人から、「少し暇になったから、体力があるからボランティアみたい

	<p>なことをやりたい」という話になりました、「みたいな」という。「こういうことがやりたい」と言ってもらえると楽ですよ？「どんなことをやりたいの」と聞いたら、「特にないけれど、生きがいや体力を考えると、何かしら関わりがないといけないと思う」と。だから、比較的その分野に明るい私に声をかけたのだらうと思いました。だから、「メニューがいっぱいあるから選びなさい」というのは、こちらの理屈で、やっぱり「なかなか選べない。そんなことより詳しい人にアドバイスをもらいたい」という感じを私は感じました。そういうことを最近の言葉で、マッチングって言うのだらうなと思って。そのマッチングがAIでできれば良いのですが、そうではなくてマッチングができるような人キーマンがいるといいのかなと。行政の中でそれを作るのは……。外部で作る必要があると思います。だから、情報が多ければ多くなるほどマッチングが大事になってくるんだなと思いました。その方が「掃除でも何でもいい」とおっしゃったから、「シルバーセンターもある」と言ったら、「縛られるのは嫌だ」と言われて。ですが、今、シルバーセンターは仕事を登録しても、週に1度とかで、そんなには来ないです。でもその方はもっと堅いイメージを持っているわけです。行政が出す情報は、どうしてもマイナスの情報は出しにくいですから、「どんどん登録してください」と言ったけれど、「意外と仕事は出ていません」なんて説明ができない、そういうことはマッチングする人であればいろんなことが言えますから。「この方に何か提案しなければいけない」と思っていました。「こういうのやりたい」と言ってくだされれば一番簡単ですけど、実は求めていることは、そんな簡単でないかなと。そういうことを感じました。</p> <p>それから、情報の話になってしまいますが、市民向けは比較的市はやれますけれど、市外は下手ー苦手ですね。県外となると本当に下手だなと思います。ただし、戦略で外に向かってやっていくのであれば、エリアを超えたところでやる必要があります。今、道の駅を一生懸命やっちらっしゃるので、そういうところが上手く機能していくと一あそこは90%ぐらい外部の方がいらっしゃるから、対外的にはそういう感じがしました。私も近くの道の駅へ行くとそういう資料をよくもらってきますが、意外と新鮮です。その市町村、村ぐらいのところも手作りっぽい印刷物を置いています。外に向けて、すぐにはできないかもしれませんが、外と内は分けざるをえないですよ。</p>
事務局	<p>内に関しては、「あまり見られない」と話がありましたが、既存の情報媒体はあります。外に出そうとすると、LINE等は使えるかもしれませんが広報は使えません。犬山市の良さを他市の人にPRするときに、その自治体の協力は得られないので、そこに「どれだけお金をかけるのか」になってくると思います。隣の小牧市であれば、そういうことをするために、電車にシティプロモーションのチラシを出したりしています。あとはもう決断するかどうかだと思っています。お金をかけてそれをやるのか、内を重視してやるのか。</p>
松浦委員	<p>最近、ちょっとしたプロモーションビデオを作っている行政も結構ありますよね、びっくりしました。大きな市が多いですが、一流の俳優さんを使って、どれだけかかっているのかなと思って。</p>
事務局	<p>犬山では、市民の方だったと思いますが、の協力を得て、ちょっとした動画は作っています。ただプロに任せると、数分でもなかなかお金がかかると聞いています。</p>
松浦委員	<p>妻の実家が、三重県四日市ですけど、そちらに行ったときにそういう施設でプロモーションビデオを見たら、京本政樹が主演でやっていました、必殺風で。お金かかっているなど。これを犬山でやろうとは思いませんでしたけれど。相当みんないろん</p>

	なことを、知恵を絞って、競争しているのだなど。
中村(昭)委員	正確なデータがあるわけではないのですが、犬山の特に観光については、実はかなりの情報が外に対して発信されていると言うか、メディア等は扱ってくれているはずです。ある側面だけなので、皆さんにどれくらい意識があるか分からないけれど、そういう外から見たときに、「犬山はそういうまちだ」というイメージ、情報はかなり出ています。市としては、それが喜ばしい部分と、そうでない部分があるかもしれませんが。そういう面では、外から見たときに「情報発信が足りない」とは一概に言い切れないかなと思います。
事務局	観光の関係で、先ほど道の駅という話がありましたけども、道の駅の機能の一つとして、地方創生に関する情報発信をする機能も入れようというアイデアもあるとは聞いています。
事務局	個人的には「観光のまち」だということが、かえって、「暮らしたいまち」の足を引っ張っていると思います。我々、住んでいる犬山市民は、観光を誇りに思ったり、観光が大事だと言っているけれど、「暮らしたいまち」とは多分、喧嘩をすると思います。「観光で賑わうところに住みたいと思うのだろうか」と個人的に思います。だから相反するものを、どのように両立させていくのか、というのは、魅力でもありませんが、暮らしたいと思うのだろうか、なかなか難しいところがあります。
中村(昭)委員	いろいろなところで言われているように、観光で賑わっていることが自分の生活にメリットになっているか、というところですね。駐車場が足りない、土日渋滞している、ゴミが多くなった、税収が増えないといった課題が、最近では表に出ていて、では観光で外から注目されることで、自分の生活は何か潤ったのか、自分が儲かったのか、得したのか、と考えていくと、なかなかそういう部分が見えていない。そういう部分をがんばって作るようにしないと、
事務局	それは観光戦略でやろうとしていることの一部です。皆さんは観光で犬山市が潤っていると思っているかもしれませんが、全く潤っていないです。犬山市は工業都市です。住んでいる人は、割と観光で生きていると思ってるので、割と観光に優しいというか。
平田委員	今の観光の話ですが、岐阜県郡上市がまさにおっしゃる通りで、郡上おどりとカスキーもあって、観光で人が来てくれるけれど、イコール住みやすいまちだとみんなが思っていない可能性があるということで、他の施策にすごく力を入れています。何かと言うと起業支援、男女共同参画。だから、観光ばかりではなくて、「郡上に来ればこんな起業もできる」、「起業したらこんな取組みができる」、「こんなふうにと人が繋がり合っている」、「男女関係なく、市民はこんなふうを考えてこんな活動しています」とアピールしている。この間、そこで講演をさせていただきましたが、もう11回かな、大きなフォーラムみたいなものを開かれて、市民がこぞってイベントをやっていて、それはそれは賑わっていました。他市から来ている方もいらっちゃって、やっぱり何か魅力となる観光以外のもの、「住みやすいんだよ」とアピールできる材料があると良いのかなと思います。
藤岡副会長	今の話と関連しますが、地域経済活性化がすごく大事だと思っています。商業が計画の中にあると思いますが、やる気のある起業家を育てることが、一番の活力のもとになるのかなと思っています。総合計画の宣言4、商業のところで指標が2つあるんですけど、この指標がバラバラに評価されています。本当は関連しているはずで、2つを鑑みて、全体としてどうかという評価をしないとイケないし、相互関係があるはずだから、商店の数が増えるからどうかということと、融資の件数は非常に関

	<p>連性のあるところです。例えば、片一方は改善されているけれど、片一方は改善されていないということであれば、そこに何らかの手だてが必要ですので、せっかくこういう施策について、複数の指標をとっているのであれば、1個ずつの指標で評価するのはとてもよくないと思っています。融資の件数が増えていないということであれば、融資のあり方を変えないといけないのに、今まで通り取扱金融機関に積極的な活動と呼びかけたとして、それは無理な話です。私は他の地域で起業支援のアドバイザー—融資の審査前のアドバイザーをやっています。直接金融機関に相談に行くと、すぐ数字の話になって、ほとんどのやる気の起業家が挫折したりする。その前段階として、私たちアドバイザーと金融機関と行政の三者が連携して、お金を借りる気になってもらわないといけない—「自分でも借りられるんだ」とか「さらに飛躍しよう」と。絶対に借りられるという状態ではなくて、借りられるような運用をしてあげないと、たぶん増えてこないということがあります。この2つに関しては、例えばさっきも言われたような、起業支援が非常に重要だけれど、そういう言葉が全然出てこないことと、もう少し、従来の延長線上の反省文ではなく何か新しいアイデアが出てくると良いのではないかと思います。</p>
事務局	<p>今の起業のところは受け止めさせていただいて、融資の件数については、この説明が言葉足らずなところがあって、2年前に産業課にいた頃の知識になりますが、小規模企業等振興資金というものの融資件数を指していますが、いわゆる銀行の貸し渋りをなくすために、市が銀行に預託してそれを資金にして一定の利率で借りてくださいというものです。現在は低金利の影響で、銀行のプロパー融資の方が安い。だから、高い金利を払わなくてもいいからということで減っているということがあります。</p>
藤岡副会長	<p>実際は増えている？</p>
事務局	<p>金融機関のプロパー融資についてはこちらで分かりませんが、貸し渋りで困っているとかいうことはないと思います。愛知県単位で信用保証協会というところがまとめているんですが、そこが分析している結果もプロパー融資—特に優良企業だと銀行も良い金利を提示しますので、そこに持っていかれるというふうに考えているところです。</p>
藤岡副会長	<p>私、東京都の創業アドバイザーをやっているんですけど、東京都が金融機関に供託金を出しています。安い金利で金融機関は貸して、もしデフォルトがあったら、半分は東京都が持ってくれるという形で。その時に事業計画作成からハンズオン支援までアドバイザーを付けています。銀行だと、やっぱり起業家の人は、お金を回収しに来たとしか思わないので、本音のことを言わないわけです。なかなか成長に結びつかないということがあるから、その仕組みの問題かなと思いました。今、つなぎ資金で借りているのとは別に、新しく起業する人たちがお金を借りていかないといけない。特に女性とかシニアとか、今まで起業していない人たちが起業するという環境整備をしていかないといけないじゃないですか。そういうことではないですか。郡上なんかもそれに近い</p>
平田委員	<p>おっしゃる通りで、リスクを取って起業しようと思わないと。その入口が、あまりハードルが高すぎてしまうと行かない。もう一つは、融資を受けて起業したけれども、それを維持して発展していけるという、その支援体制というか、そういうものも必要になっていくのではないかな。郡上は本当にそれを上手いことやっているみたいで、イベントごとに、起業して間もない人達が、例えば行政のイベントにPRできるブースを置いているとか。</p>

事務局	その起業される方々というのは、物販とかのイメージですか。
	物販もそうですし、あるいは第2創業する方とか、木工とかいろいろいらっしゃいました。まずは個人事業主で、起業したんだけど、そこから法人格を取っていくためには知ってもらわなければいけないということで、行政のイベントにもことごとくブースを構えて、出店してパンフレットを置いたりとか。それを市の人達が「どうぞ見ていってください」みたいに案内していて、すごい取組をしているなあと感じてびっくりしました。
畑委員	今までいろんなアドバイスがあって、すごいなと思っているのですが、総合戦略—最初の話に戻りますけれど、そういういろんなイベントや企画をやっていくにしても、市民の力がなければできないし、この総合戦略を市民一人一人が、自分ごととして捉えないことには、なかなか始まらないと思います。さっき、情報発信の仕方という話をしました。議会等でよく「情報公開日本一」という話を聞きますが、「情報公開」ではなく「情報発信」ではないかと。情報公開は、もう当たり前の話で、公開した情報を見に来いなんていう横柄なことでは駄目で、自ら発信をして伝えていく。例えば、民間企業ではSNS専用の部署があります。それだけを仕事にしている人がいます。それはもう上手なわけです。では、「今、企画広報課でやっている人たちはどうか」と言ったら、やっているというだけでなかなか難しい。専門的なところもあると思うので、デジタルだけではないと思いますが、やはりアナログとデジタルを両立してやっていくということを考えると、もう少し専門的な—先ほど民間投与という話もありましたが、情報発信をもう少し市の大きな仕事として捉えないと—企画広報課の中の一つということではなく、こういうことは周知されていないのかなと思います。
事務局	お話を聞いていて、半分ぐらいは総合戦略の11、12頁に書いてあることをやれば伝わるのではないのかなと思いながら聞いていました。民間の力を活用とか、マッチングが大事だとか、魅力を発信していく、ということがまさにここに。あとはこれを実現できるかどうかだと思います。
中村(昭)委員	総合戦略は、最初からこの総合計画があって総合戦略ですよ。なんとなく総合計画というものが、いろんな分野の行政の様々なものを網羅している感じがあるのに対して、総合戦略はもう少し特化したものだという捉え方を最初して、どうして総合戦略—なぜ「総合」なのかと。どうしてこれは「重点」戦略じゃないのかなとずっと思いながら、最初からボタンを掛け違えたまま今日に至っているんですけども。
藤岡副会長	国が地方創生をやっていて、「皆さん作ってください」ということがあるから。
事務局	総合計画はずっと前からあって、総合戦略は、国がまち・ひと・しごと創生法というものを作って、自治体にほぼほぼ義務付けたという形になっています。そこで名前が付いていて、国が言っているのは「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」。犬山市はそれをこういう名前を付けていますが、地方創生に関する総合的な戦略なので、総合計画よりは幅が狭いですが、地方創生ということで「これも、これも」という形になっています。基本的には、地方創生とか移住定住に関わるものをここ（総合計画）からピックアップもしくは、さらに具体化したつもりでいますが、おっしゃる通り、広いなと感じていますし、市がやる以上どこかに絞ることもなかなか難しいというところがあります。
中村(昭)委員	総合計画があるのであれば、こちらは重点戦略に特化してもいいのかなと。少し乱暴な言い方かもしれないですけど。

畑委員	分かりやすく、選管みたいに愛称にすればいいですね。
事務局	「いいね！いぬやま総合戦略」がもう愛称です。他の自治体はどこも「地方版総合戦略」と言っている。
中村（昭）委員	それは小さく書いておいて、大きくこういう部分に力を入れましょうみたいな、シヨルダーフレイズみたいなものを使うとか。
事務局	市民に少しでも親しんでもらおうということですが、ではこれが伝わっているのかという。
事務局	今回、力を入れたいところ、16、24 頁には「いいね！」をつけました。審議会の中で、定住・移住をPRするのであれば子育てとか教育という話がありましたので、強調したいところには「いいね！」マークをつけています。 そろそろ時間ですので、このあたりで、閉めさせていただきたいと思います。 ありがとうございました。

【Bグループ】

事務局	グループワークでは、総合計画、総合戦略、地方創生関係交付金につきまして、委員の皆様から、ご意見やご助言、ご感想等をいただいたりご協議いただければと思っております。調査票1から4-2の中身についてでも構いませんし、普段のご活動の中で感じていること等でも構いません。それぞれのお立場やご視点から、ご発言いただけたらと思っております。いただいたご発言につきましては、関係課にフィードバックをさせていただいて、今後の市政運営に役立てて参ります。 なるべく多くの皆様にご発言いただきたいと思いますのでご協力をお願いいたします。
石田委員	いろいろな調査票や、データがたくさん出ていますが、どんな計画でも作ることは簡単ですが実行に移す段階になるといろいろと問題が出てきて、どんなことでも100%はありえないと思います。50~60%でも進めれば、まあまあの出来ではないかと思えます。いずれにしても、30年40年先を見越して、犬山市の人口6万1千人を目標に掲げている。ここにも書いてありますが、「犬山に買い物をするところがない」。私は上野ですが、扶桑町のマックスバリューに買い物に行くと、犬山のまちの中の人がたくさん来ています。それがまだ清水屋さんが一般的に営業していた時でも割と多かった。ラーメン屋さんはどこでもありますが、うどん屋さんはここにも書いてあるけれどない。寿司屋でも、チェーン店は割と少ないもので、商工業の中で、特に飲食関係の店を誘致、開発することを、観光地として犬山は有名ですが、前々からお客さんがまとまって食事をするということがあまりないと言われていました。何年か先にまた立派なものができるのでしょうかけれど、犬山ホテルもなくなりました。会議所の会頭もみえますが、特に飲食関係の誘致、開発をまず、お金を使うみんなに喜んでもらうこととなると、第一歩ではないかなと私は思います。自分達も食事に行こうとなると、こちらに上がってくるのではなく、下に行きます。そういうこと、もちろん工業、観光も大切ですが、人間、食べるが一番基本ですから、まず食べること一誰しも立ち寄れる、入れる、食べる、そういうことを第一目標にしてもらえると良いかなあと単純に思います。
事務局	石田委員がおっしゃることは、アンケートやいろんなデータでも出ていて、我々職員も痛切に感じています。そういった意見も踏まえて、総合戦略には道の駅エリアのことも書かせていただいていますし、商業集積ラインー市長が発案して、幹線道路の沿線に、飲食ができるような施策を進めています。分かりやすい例で言うと、スターバックスができて、その隣にもお店ができるという話が出てきています。だんだん集

	積ってきて、そういう店が揃ってくるのかなと。市民の方や観光客の方にも利用してもらって、少しずつですがそういうものができたらいいなど。
石田委員	一番身近なことで、例えば、教育にしる福祉にしる、いろんな問題があります。予算もかかるが、いろいろ計画もしないといけない、人材も必要だということで、なかなかすぐ実行はできない。手短にすぐできる、すぐ取り組めるようなことも考える必要があると思います。子育てもいろんなことがありますけれど、個人的に、上木子ども未来園のお手伝いをボランティアでやっています。3月頃、今年はコロナウイルスの関係でできませんでしたが、3月16日に、30~40人、ジャガイモの植えをする予定でした。それを6月に収穫して、11月には芋掘りをやり、11月終わり頃にはタマネギを600本ほど植えて、ということをして十数年やっています。食育のために子どもたちが土に触れること、そういうことも皆さんに「助けてちょうだい」、「協力してちょうだい」ということで、一人ずつ仲間を増やして、身近なことですぐやれること、手を付けられることも少し考えればできることもあります。5年先、10年先のことも大事ですが、すぐ目の前の取り組めることから続けていく必要もあるかなと思います。
事務局	ありがとうございます。 続きまして、水内委員お願いしてよろしいでしょうか。
水内委員	資料が膨大できちんと目を通していませんが、調査票1の一指標に縛られるわけではないですが、指標については高い水準でクリアしているのかなというふうに見ています。その中で、「どこが足りていないのか」と思ったときに、3頁の整理番号38「国際交流活動の推進」で、見込値が「1」で目安値が「5」、達成状況が「22%」となっています。事業が少ないので、極端な数値が出てしまいますけれど、この国際交流活動の推進というのは、大事になってきているのではないかなという気がします。かつてのように、姉妹都市を作ってお互いのことを知り合って、というレベルの国際交流ではもうなくなってきています。移民の方々が増えてくるし、実際の問題として、大学でもそうですけれど、国際交流のセクションだけが国際交流をやるということではなくて、生活の支援、言語の支援、教育の支援、地域コミュニティのサポートや就業支援も含めて、広い意味で国際交流というものを捉えていくと、おそらく他の指標とも重なってくるものが多いのではないかと思います。特に国際観光都市で犬山、かつ移住する人が多いという傾向の中で、今後戦略的にどうしていくのかということは一具体的にいろいろ考えられているとは思いますが、大事になってくるのかなと思いました。
事務局	指標の立て方がどうかということもありますが、まさに国際協力支援事業の実施数ということで、海外の国際交流協力とか災害復興支援の拡充というものを指標に立てています。我々も認識としては、友好都市も大事ですが、日本に来ている外国人—犬山に住んでいる外国人と、いかに多文化共生で、一緒に住んで暮らしていくか、一緒に文化を作っていくかということが今の課題、あるいは今後やっていくことだというふうに思っていますが、指標がそういう形になっているので、数字があまり伸びてないということがあります。今後、見直しの際には、今、水内委員おっしゃったようなところで考えていかなくてはいけないというふうに思っております。実際、犬山に住んでいる外国人の方は増えてきていますので—ベトナムの方とかがかなり多い形になっていますので、そういったことをまちづくりの中でも考えていかないといけないなど。
水内委員	全所対応と言いますか、大学だと全学対応で部署をまたいで全員が国際交流に対

	応じましょうという時代になっています。
事務局	今おっしゃったように、犬山市で言うと観光交流課ですけど、そこだけではなく、ゴミの出し方の問題であったり、福祉にどう繋げるのかという問題がありますので、全庁的な対応が必要かなと思っています。 ありがとうございます。 続きまして嶋田委員にお願いしてもよろしいでしょうか。
嶋田委員	まず先ほど石田委員のご意見で気になったんですけど一私はここに住んでるわけではないので、「買い物とか食事に困っているのかな？」というのが実感なのですが、犬山の商圈ってどうなっているのでしょうか。それに近いのが、アンケートをとられていまして、調査票1、整理番号49番、50番ですけど、例えば49番、市内の商店、店舗で買い物をする人の割合—アンケートで聞いているので、本当かどうか分からないですけど、当初58%で一応、達成状況を見ると達成しているということですね。目標が68%、当初2010年が58%、実績値が2016年度で66%、目標は68%。令和元年度末時点見込みが68.2%となっていますが、この「見込み」は、どうやって出していますか。実績値は2016年しかないですよ。2010年から2016年までの伸びをそのまま直線で上げている？
事務局	今年度夏にアンケートをやりましたので、2019年度の数字が入っていると思います。
嶋田委員	とにかく、増えているということですね。
事務局	はい。
嶋田委員	ただ、これで見ると最寄り品ですよ。やっぱりちょっとした買い回り品というのは、どこか周辺の市町村に行ってしまうんですか。例えばどういうところですか。
事務局	小牧、各務原。大きいものはやはり名古屋屋に出してしまいます。これはアンケートもそうですが、実際にそういう数値が出てしまっています。
嶋田委員	扶桑町のイオンに取られるとか。
事務局	それも、もちろんあります。
嶋田委員	そうすると「もう少し市内に魅力的な商業施設があれば」ということですね。そうすると駅前ですかね。道の駅ができますけれど、何年先か分かりませんが、6年から7年くらい先という話なので、それまでにまた商圈が周りにとられてしまうと寂しいですね。 もう一つ交付金ですけど、これは、まち・ひと・しごと
事務局	はい、その推進交付金です。
嶋田委員	交付金はいくらもらっていますか。億単位ですか？
事務局	全部足すと億単位です。
嶋田委員	KPIを見て気になるところがあって、すごくかけ離れているもの—順番にいきますと、地方創生推進交付金の一番上「農あるシルバーは地域を救う」の④が、目標に対して、見込みが半分ぐらい。あと3番目の②、これ「0」ですよ。目標は225という中で「0」は少しひどいなど。それから2頁③です、15人に対して3人で終わっている、といったことが気になるので、こういうものをどうしたらいいのかということが気になります。
事務局	一番目のものは、トマトの生育が遅く去年よりは取れていない状況ということですよ。
嶋田委員	これはトマトだけですか。
事務局	トマトのみです。アイメック農法という、目で見て管理できる高齢者でもやりやす

	<p>いということで選んだ農法です。アイメック農法をやっている他のところに聞いても、今年は天候の問題もあって少し生育が遅いと。獲れる量が単純に少なくなっていると聞いています。</p> <p>下のフューチャーセッションについては、活躍の場―「場」としての設定がまずできていない、と聞いています。やってみて、「場」としての設定ということが、事業として難しかったと。当初は「「場」として設定して活用した商業施設の売り上げにも繋がったらいいな」というビジョンを思い描いて作った数字でしたので、やってみて、違ったというか。</p>
嶋田委員	やり方を変えたりすると良いですね。
事務局	<p>「シェアリングエコノミーによる支援サービスを利用して」というものは、「及び」がネックになっていて、シェアリングエコノミーによる子育て支援サービスの利用状況の把握があまりできない、ということがあります。実際にやりたかったことは、「シェアサービスを使って便利だったから、自分も提供者になってもらおう」といったところを目標にしていたので、そういった意味ではこちらに書いてあるようにシェアエコ博覧会参加者については把握できていないが、「にこっと」内には託児部ができて、提供者にはなってくれました。想定していたところは、達成までは至っていませんが、活動してくださる方が増えたということで、成果はあるのではないかと。</p>
嶋田委員	KPIの指標が想定していたものと違うと。そういうことは他の交付金でもいろいろあって、何か補足資料はありませんか？まち交、社総交等は補足指標を出します。この指標は達成できなかったけれど、補足指標として、こういうものは達成できたということで、評価を、補足するというか、そういったことは？
事務局	「見直し」は、あまりできない。難しい。
嶋田委員	変更はできないけれど、代替りの指標、補足指標、そういったものは？
事務局	そういったものはあまり。
嶋田委員	<p>そういう指標を用意すると評価としては良くなると思いました。</p> <p>長くなってすみません。私、交通が気になって、公共交通もバスの利用者は増えていますが、本当にこれは便利にはなっているのでしょうか？と。今、コミュニティバスっていくらですか、高齢者はいくらですか。もう一つ掘り下げて、利用者の意識調査をしたり、あとはOD調査と言って、どこからどこに、何時ごろ移動しているか、ということ、本当にニーズと合っているのかどうかということ、1回調べて、地域公共交通会議をお持ちでしょうから、そこで議論していただければいいのですけれど。</p>
事務局	先生がおっしゃるのは、総論でコミュニティバスの利便性だけを聞くのではなくて、きちんと地区ルートごとの意見を確認したほうが良いということですね。
嶋田委員	<p>そうです。数値は伸びているけれど、例えば、調査表1の10頁、147番―バスの利便性の向上。犬山市に住み続けたい理由として、公共交通の利便性を選択する市民の割合は、若干未達です。その上の、コミュニティバスの利用者数は増加していて、利用者は増えているけれど、満足はしていないのかな、ということがあるのかなということです。だから、本当に使いたいニーズに合っているのかなと。この会議の下の、関連するその地域公共交通会議の話だと思いますが、そういうところと連携して。</p>
石田委員	コミュニティバスもいろいろ聞いていると、ほとんどが高齢者。中央病院に行ったり、それから駅西病院。上野からは、そこへ行く人が多いようです。
嶋田委員	高齢者はだいたい商業施設と病院です。ただ、朝・夕は通勤で利用する人もいて、私は東海市と稲沢市のバスに携わっていますが、朝・夕だけ駅まで直通便を走らせて

	<p>います。本当はグルーッと周るのですが、朝・夕だけは直で駅に行ける、早く行ける。そういうことも、利用者の意識を聞いて変更したり、そういうことをマメにしていかなないと本当に住みよいまちにならないかと思えます。「足」は大事です。</p>
石田委員	<p>利用者の意向を調査する必要があります。</p>
嶋田委員	<p>利用者だけでなく、住んでいる人の意見も聞く。本当は利用したいけれど、不便だから利用をしていないという人がいるので、そういうことも考えていただくといのかないかと思いました。</p>
事務局	<p>地域公共交通会議の担当にしっかり共有をして、より良くなるようにしたいと思います。</p>
水内委員	<p>嶋田先生が言われたことをいろいろ見ていくと、もしかしたら結構大きな一総合戦略の場なので、あえてですけど、話につながるのかなと少し不安に思った点があります。この交付金の件数で、「活躍の場」として設定し、「(仮) フューチャー・セッション・スペース」で活用した商業施設のうち・・・や、「シェアリングエコノミーによる子育て支援サービス・・・」、それから調査票1、3頁の整理番号29では、市民参加が32%にとどまっていたり、市民活動を行っている割合が低かったり。これは行政がすごくしっかりしてきた犬山だからこそその弱みなのではないかという気がします。辛口なことを言うと、市民の人たちがおんぶに抱っこという状態から、なかなかまだ抜け出せていないという状況にあるのではないかと。そういうことが透けて見えてきている気がして、今後10年とかを上手く運営していこうと思うと、どうしても従来型の市政ではなくて、市民の方がどう参加するのか、そこをどう犬山で盛り上げていけるのか、という議論が大事なのではないかと思いました。</p>
事務局	<p>こういう数値に出ているところで、犬山の現状の弱みを感じておりまして、そこは鈴木先生に取りまとめていただいて、協働のまちづくり基本条例というものを今年度制定し、次はそれを実践に落とし込むという段階になってきています。その中で、先生がおっしゃったような形で、いろんな人を巻き込んでとか、そこで活躍できるという形で、進んでいくといいなと思えます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、高橋委員お願いしてよろしいでしょうか。</p>
高橋副会長	<p>先ほどのコミュニティバスは、小学生は100円/日、普通の方で200円/日。一日乗り放題ということでした。最近、時刻表とか見直しをされて、頻繁に見かけるようになったということは、市民として報告させていただきます。ただ、交通弱者というもの考え方が、老人と障害者に偏りすぎていて、実際それを通勤に使うということからは少しいかが外れてしまっています。だから利用者の満足度というところが足りない。実際は、高校生はもちろん、小学校、中学校でも私立の名古屋に通ったりしているので使いたい。なかなか朝送っていく時間もなくて、大変だという声も聞きますし、もっと活用できるのではないかと思いました。それから、車を2台持ちできないご家庭があって、通勤に旦那さんが自動車を使ってしまうと、奥さんは自転車で一生涯懸命・・・という声もあります。参考までに。</p> <p>私が言いたいのは、先ほどのランチ難民ではないですが、食べる場所がない。おっしゃる通りです。夜、飲むところも少ないです。利用者の一人として本当に少ないなと思っています。隣の各務原を参考にしますと、大手企業一特に人をたくさん使う製造業を上手く誘致して、その裾野にある飲食店、飲み屋さん、それから各種小売店等も。大手企業というのは必ず地元で何%かは買ましようという努力をしますので、その辺のぶら下がり関係です。大手をなかなか呼べない、呼ぼうともしないの</p>

	<p>かもしれませんけれども、その辺の努力が、諦め諦めで来てしまって、とにかく最終的には「規制があるので、できません、呼べません」となって、少し寂しい結果に、工業的にはなっております。本社を誘致できれば一番良いわけですけど、そうでなければ、出先の工場を誘致するというのは本当に良いと思います。こちらを拝見させていただいて、やはり「住んでくれ、住んでくれ」と。やっぱり、お金がないと住めないし、お金を生み出す場所、ものがないといけない。職場－雇用関係があれば、地元に住むということは本当に多くなるだろうと思っております。また、企業誘致をして良い点というのは、全てとは申しませんが、実際のところ、お祭り、まちのイベント等を支えているのは、企業－市民の方にも、2,000円、3,000円、5,000円とたくさんご寄付をいただきますけれど、やっぱり、ドーンと支えてくれているのは地元の企業ということがほとんどだと思っています。企業も辛いところではありますけれど、やはり地域還元ということを非常に考えていますので、そういうことをやられるのだと思います。ということで、本当に工業団地も欲しいですし、企業誘致というのが、すべての裾野として、1社来ると必ずこの裾野は広がるということで考えていきたいというのが意見です。</p>
事務局	<p>我々も移住定住を進めていくためには、働く場がしっかりとないと、やはりなかなか難しいということで、「先ほど規制が」という話もありましたが、なんとかやっていけたらと思っています。</p>
高橋副会長	<p>本当に規制は「こんなに規制は邪魔なものなのか」と。これだけ規制緩和と言っておいて、土地を売って立派な住宅地を作ろうと思っても、思うようには進みません、よくお分かりだと思いますけれど。うちも契約がやり直しになってしまいました。結局、間に合わない、本当にいじめみたいなもの。いいことをやろうとしているのに、なぜそういういじめみたいなものが入るのかなと思っています。</p>
嶋田委員	<p>他市町に来た企業の人たちを犬山に住んでもらうようにできませんか。私だったらあまり会社の近くに住みたくないの、ちょっと離れたい。そこを上手く犬山に住んでもらうようにとか。それも考え方の一つですよ。</p>
高橋副会長	<p>出入りの営業マンって、うちでも一日当たり100人ぐらい来ますけれど、その人たちが食事しようかとなると、時間さえ合えばやっぱり近くで食事をしようと思いません。ですから住まないにしても利用というものがあると思います。</p>
嶋田委員	<p>確かに働いている人－昼間の人口は増えますよね。</p>
鈴木会長	<p>大口町に進出をした企業の従業員をいかに取り込んでいくか。</p>
嶋田委員	<p>住むのは犬山に住んでください、と。</p>
鈴木会長	<p>そのためには市内からの流出を防ぐことを含めて、誘致に際して企業に対するアドバンテージ、あるいは働く人たちに対して犬山の企業で働くことのメリットをどうアピールするか、という具体的な戦略が必要ですね。</p>
石田委員	<p>犬山に道の駅ができるというビジョンがあるようですけど、ほとんどの道の駅は、地産地消ではないですが、地元のをできるだけ展示して、皆さんに買ってもらうということが基本的な考え方です。しかし、犬山で売ることができるものがあるか、皆さんに喜んでもらうものがあるのか、というなかなかこれといったものがないと思います。そういうことを考えると、今、用意して、すぐモノが売れるということは難しいので、道の駅は10年計画でぼちぼち進んでいるのだらうと思いますが、建物や施設に重点目標がいて、そこへ並べるものをどうやって調達するのか、という計画まではまだないと思います。昔は楽田－大縣神社の近くに二宮みかんがあって、今は衰退して、一部分しかないです。今井のパイロットでは一時ぶどうがありま</p>

	<p>したが、これも見る影がほとんどないです。そういったものも復活をさせて、1年や2年では、少々のものでできて、売だけのものできないとは思いますが。だから、道の駅の計画の中に、施設ではなく、そういうものの供給の計画も織り込んでいただけるといいと思います。</p>
嶋田委員	<p>入っていましたよね。</p>
事務局	<p>道の駅の中でもそういう話がありますが、実は観光戦略というものを今、作っています。その中で、犬山の特産品を作らないといけない、という議論があります。それは、すぐにできるものではありませんが、少し長いスパンで、「犬山でしか」や「犬山のものいい」と言われるようなものをこれから・・・</p>
石田委員	<p>それは、5年、10年というスパンでやれば、これから育ってくると思います。単純に思うのですが、甘夏、はっさくが、皮が厚いから、長期間もつわけです。ああいうものでも、屋敷の広い家庭に「1本か2本植えてください」と。今、植えれば、5年も経てば結構なります。そういうことも市が助成して、そのうち皆さんに「出荷してくださいよ」と。</p>
事務局	<p>そんなに手間はかからないですか？</p>
石田委員	<p>そういうことも、先を見越して先行投資じゃないですが。その作った家庭にもメリットがありますし、市の計画に対する供給のメリットが出てくると思います。はっさくや甘夏だけではない、いろんなものが。</p>
事務局	<p>少し検討させてください。</p>
鈴木会長	<p>今の石田さん話の関係でいうとこんなことがあります。長野駅に行く、「おやき」の中にいろんな地元の特産品—特に野菜類とか、いろんな種類が入っています。長野県はその種を非常に大事にしています。皆さんご存知だと思いますが、種子法というものが、2018年4月からなくなってしまって、地域特有の種というものをそれぞれの国が責任を持ってやっていこうということがもう放棄されてしまいました。これからアメリカからどんどんと除草剤と一緒に、入ってくる時代になってきてしまう。そうすると、ゲノムの話もあるので、本当に環境に良い、あるいは地域の特産品としての種子作りというのも難しくなってしまう時代になってしまいます。だから、今の石田さんの話はすごく重要なところで、もっともっと特産品というそのできたものを、どう特色があるものを作るかだけでなく、種の部分から大事にしていこうということ—「犬山の固有の種って何だ」、「食材の種は何だ」と—そういう検討から始めて、その出口が観光戦略で議論されるということにしていけないといけない。実は、愛知県はその部分が一番弱くて、お隣の岐阜県、長野県、三重県、静岡県は、もう県をあげて、やはり地域の特産品を、種の部分から育てていこうということを一生涯懸命やっているのだけれど、愛知県はまだその方針ができてない。だから、是非とも、石田さんの話を、その元のところからきちんと検討していくことをやったほうがいいだろうと聞いていて思いました。</p> <p>それで、私から一つだけ。総合計画、それから、まち・ひと・しごと創生総合戦略でも、重視をしたところが災害のところでした。これは危機管理という部分で、たまたま今、新型コロナウイルスがあつて話題になっていますが、従来自分の捉え方がすごく狭かったという反省をしています。従来は、例えば、犬山市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の3つ目のところで、人の交流「訪れたいまちがある」というものを検討していくのに、いかに自然災害から観光客を守るかという観点で、例えば、観光業のBCPを策定する重要さであるとか、あるいは、市として地域防災計画の中に観光の要素も取り入れるべきだということを言ってきましたけれども、そのこのところ</p>

	をもっと見直しをしていく必要があるのではないか。そういう観点でこれを見たときに、実はない。特に災害については自然災害の捉え方が多くて、健康危機—例えば感染症等については、非常に比率が少ない。それから、観光業がたくさんありながら、食中毒対策を市としてどうするのかということも、実は十分ではなくて、個別の法律に依存しているだけです。ですから、今回こういう新型コロナウイルス問題が出て、感染症からいかに観光客を守るか、あるいは観光事業者を守るか。それを官と民が一緒になって取り組んでいくという観点を今回のことをきっかけとして、検討していく必要があるだろうと。それが例えば、訪れたいまちがあるという、資料の調査表3のところ、観光戦略会議の開催ですけども、観光基本条例ってありますよね。
事務局	ないです。
鈴木会長	観光基本計画はありますか。
事務局	ないです。ないので今、観光戦略というものを作っていきましょう。
鈴木会長	なるほど。丁度いいので、その中で、観光危機管理という観点をやはり入れていくべきだろうと思っています。観光危機管理というのは、観光とか観光事業者、観光客に対して、何がリスクなのか、危機なのかということを見ていかなければいけない。犬山の場合は他の町と同じように自然災害—地震とか大雨であるとか、犬山固有の自然災害を考える必要がある。それから事故。これは大規模火災、それから交通事故、それから特に鉄道の事故。こういう人的災害。それから犯罪。もう一つは、今回の感染症。実はもう一つは大事なことで、犬山の観光地ってやっぱお客さん来てくれてなんぼというところがあるので、お客さんが来られない状況になった他の地域での災害というものも考えていかなければいけない。つまり、犬山に来るお客さんはどこから来るのかということ、当然、観光業者の方たちは知っていると思いますが、宿泊の場合と日帰りの場合、あると思います。その来るエリアで、何かしらの災害なり事故なり、問題が起きた時にお客さんが来られなくなってしまう。それによって観光地である犬山の事業者が食べられなくなってしまうということが起きるので、地域外で発生する危機や災害はどういうものがあるか。こういうことをやはり調べて、犬山市の今回の観光戦略会議の中で、是非とも部門をきちんと設けて、議論をしていく必要がある。犬山市は、災害対策基本法に基づいて、地域防災計画を作っていますが、その対象は犬山の住民です。決して観光で来る観光客等は対象ではない。そうすると、一つとして、計画としては、地域防災計画の中に、観光客の安全というものを図るということ—これを、このまち・ひと・しごと創生総合戦略の訪れたいまちがあるという中の観光振興と連動させて作っていくことが必要である。それから、見てきた中では、第5次犬山市総合計画改訂版の調査票1ですけど、これが現状では、高齢者—7番、8番かな、感染症対策というものがあるけど、ここではMR予防接種と高齢者のインフルエンザ接種率が今回のテーマになっていますけれども、公衆衛生の観点からすると、これ以外に例えば、麻疹の対策であったり「予防接種を2回必ず市民はやりましょう」といったことも徹底していくということが必要だろうと思います。改めて今回の新型コロナウイルスのことをきっかけとして、市民の健康管理と観光客に対する安全対策ということは、もう1回見直しをしていく必要があるなど、今回の資料を見ていく中で、圧倒的に欠落している部分の一つではなかったかなと思って述べておきたかったというところです。特に犬山は（主要な観光施設への）観光客が現在、年間260万人。これを272万人、にしようとしています。ということは、1日の観光客が、これを365日で割ると大体7,200人ぐらいかな、1日。1日7,200人いるわけです。犬山の人口との比でいくと、約9.9%。それが観光客です。決して低

	<p>い数字ではなくて、これを今後増やしていこうというわけなので、そうすると、「たまたま短期間、短時間いる人たち」という捉え方で、いかにそこからお金を取るかということだけではなくて、安全なまちを作っていくという観点で、地域防災計画とか、それから観光戦略会議の検討テーマの見直しをしていく必要があるということを実感しています。</p> <p>もう1点だけ、私は刈谷市の中小企業振興基本条例の策定の責任者をやっていて、今、中小企業振興会議を立ち上げて、この間、県の企業団地造成に合わせて、進出企業の公募を締め切りました。そこで選考基準を策定する作業をしましたが、我々は選考できないので、あくまでも選考は企業庁がやるので、選考基準を作りました。その中の一つに進出する中小企業のBCPを入れました。BCPの策定をしているところは加算点を入れて、県企業庁に推薦をする。別の言い方をすると、市民の人とか、地元の刈谷工業高校の子どもたちに、この会社で働けばいざというときーいざというときがないと言うか、「安全に働き続けられるよ」、「水につかっても、いち早く事業を再開して、働いて収入が得られるよ」、「この会社はそうだよ。こっちは違うよ」、そういうことが言えるようにしていく。そうやって、安城市や西尾市、知立市などと中小企業の再生をそこで作っていくということをやりました。やっぱり犬山も、先ほどのお話にあるように、犬山に進出してもらう、あるいは働いてもらう人を増やすという場合には、どんなアドバンテージを作るか。これはもう職種ではなかなか区別がつけられなくて、安全に、あるいは働き続けられる、そういう環境というものを会社として備えさせていくということ、市を挙げてアピールしていかなければいけない。そういうことを今、求められているのではないかな。</p> <p>以上です。</p>
高橋副会長	<p>海外旅行で、あまり言ったことのなかったカンボジアとかエジプトに行くとしません。そういう時に外務省のホームページを見て、予防接種が必要かとか、治安の具合だとか、そういうことを見て、安心してから行きます。絶対その通りです。国内ではそんなのはあれですが、でも、結局、先生のおっしゃられたことはそういうことから、非常にいい考え方です。</p>
鈴木会長	<p>それは私も碧南市に行ったときに教えてもらったことです。碧南市には臨海工業地帯があって、臨海工業地帯がないと本当に税収が入ってこない。市外に対して、地域振興の一つの目玉は、進出している130社の中小企業にBCPをみんな一斉に作ってもらっています。例えば津波が来て、一時的に操業は中断しても、お互いに協力し合ってBCPが稼働できるようにしている。背後地のほうに逃げて従業員はすぐにまた復旧をする、市を挙げてそれをサポートすることをやっていますから、どうぞ安心して事業を、碧南市の事業者と取引をしてください、ということ、あそこはホームページに上げてやっています。地域連携BCPと言いますが、やっぱりこういうことがこれからの時代に必要で、企業は企業、あるいは工業団地は工業団地、市は市、ではないです。だから、そういった点で従業員にとっても安心して働き続けられる、あるいは取引も安心してできるという環境づくりを今回の総合計画と、それからまち・ひと・しごとの中で、関連するところはチェックして、見直しを図る良いチャンスだと。</p>
事務局	<p>感染症対策は、まさに今回のコロナウイルスで、我々も思い知らされたところで、こういう視点はこれから大事だと思います。計画自体の見直しというのが、近いうちに出てきますので、今、先生がおっしゃった視点はぜひ取り入れていきたいと思えます。</p>

	一周したところで、ちょっと時間がないので、ありがとうございます。 では皆さまお席にお戻りください。
--	--

(移動)

鈴木会長	どうもありがとうございました。 それでは冒頭お話したように、それぞれコメントを添えてのまとめはいたしません。皆さんそれぞれのテーブルでお話をされたことを事務局がまとめてくれますので、よろしく願いいたします。 それでは事務局の方からお願いいたします。
事務局	鈴木会長ありがとうございました。 本日の議事はこれで終了でございます。 次第の「4. その他」とありますが、本日は、連絡事項は特にございません。これにて、(令和元年度第4回総合計画審議会は)閉会とさせていただきます。 委員の皆様、本日は、誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。

< 閉 会 >